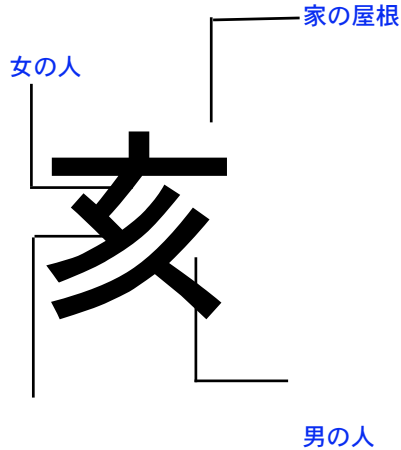


## 戌亥天中殺

「亥」の字を分解しますと「亼（家の屋根）」のなかに人が三人寄り添っているかたちで出来ています。それは、「亥」の字は家の中に夫婦がいて、寒い冬を一家が寄り添いながら暖をとり、平和に暮らしながら春を待つ姿を表しているのです。



平和な家庭、夫婦が子供をはさんで一家団欒（いっかだんらん）、実に微笑（ほほえ）ましい庶民の姿であります。戌亥天中殺は事実庶民型の天中殺で、家庭を守り、平和的人生をすすむ特性をもっています。

戌亥天中殺でも種々の人生行程がありますが、総体的に身内や親族、なんらかの関係でうまれた仲間・親友など、身近な人達に対して、心を砕き、また大切にする性格をもっています。

動乱を嫌い、心に争いのない道を選ぶようです。

それは中庸の感覚が天性に備わっているとも云えるのです。

戌亥天中殺をもつ人は、多くの目的をもっても、一つ一つ積み重ねて行き、じつに時間がかかります。

たとえ心が急いでも、自分自身は性急に行動したつもりでも、人生を大局的（たいきよくてき）にみればブロックを一つ一つ積んでいるようなものであります。

性格は一見安全で平和的なようにみえますが、落とし穴があって時代の変化や社会の変遷（へんせん）には実に弱いのであります。

また、自分自身が新しい事を起こす場合においても急激な変身が出来ないで、いつまでも古い形をとどめようとする傾向があるのです。

それだけに、心のどこかに古いものに対する郷愁（きょうしゅう）めいたものがあって、自分の心を常に伝統の中に置こうとします。

当然、古典的・古風なものが好きになります。人によってはその心が収集癖（しゅうしゅうへき）などにあらわれ現代のものではないものを周りにおく様になるのです。

戌亥天中殺の特色は、このような平均的思考に支えられているため、よほど用心しなければ、良い事でも悪い事でも両親や祖父母など、目上の人の云通りに人生を歩む事になるのです。

もし、自分自身が文学の道へ進みたいと思っても、親が医学に進めと云えば、本心は嫌いであるにも関わらず、それを承知してしまうのです。

その結果、両親の他界後に職を変えたりするわけです。だいたい周りの言を大切にすぎで、逆に自分を犠牲（ぎせい）にしてしまう傾向があります。

何故ならば、干支の戌亥はものの終わりを意味するところから、新しい時代を作る犠牲になったりになったり、一つの物事を終結させるための役目を背負ったりするのです。

ただし、最大の欠点としては自分の身内に甘い面があり、自分の子育ては実に下手であります。

しかし、子供の方が大人になってきて壮年期にくと、逆に懐かしがられたりするものです。

それだけに、戌亥天中殺の武器は長生きであります。